

令和元年度事業計画書

令和元年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

事業計画のポイント

2019年度のFAJは、「原点を見つめ直しながら、ワクワクな改革を始める」をキーワードとして以下の2点を重点的に取り組みます。

- ・「組織のあり方とやり方を考える対話と議論」をさらに深めながら、ワクワクする改革を開始します。
- ・「ファシリテーションのインパクトを現場に届ける」ためのファシリテーションの普及と探究を継続します。

日本ファシリテーション協会(FAJ)は、ファシリテーションの普及を通して自律・分散・協働型の社会を目指すNPOとして昨年創設15周年を迎えました。日本各地でファシリテーションの活用事例が増え、認知度が高まる中で、多くの会員がFAJ活動の中でファシリテーションを学び、ビジネスや行政、地域コミュニティ、災害復興、教育、医療、福祉など多様な分野で活用しながら、それぞれの現場で課題に立ち向かって試行錯誤しています。

改めて、これまでのFAJの事業計画スローガンを見返してみると、「FAJ内の求心力を高め活動のエンジンを持続可能に回すこと」、「そのちからを社会(外)に向かって伝え、様々な分野の現場での実践により成果をあげること」の2つの力点の間を行き来しながら活動してきたことがわかります。もしくは、ファシリテーションの本質的な価値の探究と、それを応用して広げることの間の行き来ともいえるかもしれません。それらはまるでグルグルと円を描きながら螺旋階段を上昇するような成長のプロセスでした。「伝統は革新の連続である」というように、新しいことに挑戦することで守るべきものが見えるとするなら、何を原点として大切に、何を改革するのかを見極めることで、私たちの活動はこれからも螺旋状に進化していくことができるでしょう。

また、私たちFAJのこれまでの活動を振り返ってみると、「やってみたい」、「試してみたい」「変化をおこしたい」というワクワク感が原動力でした。今年度は、そのワクワク感を大切にしながらFAJ活動の意義とこれまでの成果を再確認するとともに、対外的に伝える活動を展開します。

年度	スローガン
2007年度	現場に出よう！
2008年度	現場をつくろう！
2009年度	現場をつなごう！
2010年度	〈わたし〉のちからを、〈わたしたち〉のちからへ。
2011年度	あらたなくつながりのために 〜〈ちから〉を育み、〈うごき〉をつくる〜
2012年度	ミッションに立ち返り、FAJのあり方・やり方を、次の10年を見据えて考える
2013年度	次の10年も社会へ貢献し続けるため会員が継続的に自己研鑽しファシリテーション力を高めていける仕組み作り
2014年度	実践者となり成果を上げる
2015年度	〇〇 × ファシリテーション
2016年度	越えてつなげる
2017年度	ファシリテーションのインパクトを現場に届ける
2018年度	対話と議論でFAJ活動の意義を問い直す

■「組織のあり方とやり方を考える対話と議論」をさらに深めながら、ワクワクする改革を開始します。

各拠点の運営の場や全国運営スタッフ会議での議論を踏まえて、組織のあり方とやり方を考える対話と議論を加速させ、大切に守ることと改革することを明確にしていきます。そしてそこから生まれるアイデアを素早く形にできるように積極的に試行します。

■「ファシリテーションのインパクトを現場に届ける」ためにファシリテーションの普及と探究を継続します。

社会課題の解決に取り組む会員同士が学びあい、エンパワーしあいながらファシリテーターとしての実践を通してインパクトにつなげます。また、対外的な発信を強化し、外部の協働パートナーとのコラボレーションにより社会へのインパクトの相乗効果を高めます。

以下、重点的に取り組む内容を事業別に記します(括弧内は担当組織を表します)。

1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

調査・研究事業では、FAJ内外の連携を深め、実践力の相互研鑽の場をつくっていきます。

1) 実践力の相互研鑽の場作りの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 定例会や例会においては、「学び」と「実践」双方の視点からファシリテーターとしての成長を目指したコンテンツを開発し実施します。プロジェクトにおいては、テーマの特性を踏まえた調査・研究を行います。調査、研究した結果については振り返りや成果発表を実施することで学びを深め実践につなげます。
- 各支部・サロン・委員会の活動から生まれた、企画やプログラムのアイデアについて交流、対話を通して共有し、相互に活かせる場を継続してつくります。

2) ファシリテーションの本質を探究(理事会)

- 全国や世界で活躍するFAJ内外のファシリテーターが一堂に会し、ファシリテーションの知見を共有し、本質を探究し合う巨大イベントの開催を検討します。

2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

教育・普及事業では、これまで提供してきた公開セミナーをより広く展開できるように、継続強化するとともに、公開セミナーの新たな事業である「実践編セミナー」の展開に向け、さらなる推進を行います。

1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- ファシリテーションの普及のため全国各地で公開セミナーを開催します。
- 今後も質の高いセミナーを継続的に開催できるよう、講師の増強、レベルアップを推進するとともに、セミナーコンテンツを継続的に改良します。
- 前年度設置したセミナー・サポートセンター(SSC)が中心となり、地域を越えて相互協力し、セミナー運営の効率化や集客の取り組みなどを行います。

2) 公開セミナーの新たな展開の検討(公開セミナー委員会)

- これまでのパイロット結果、参加者からのフィードバックを踏まえて、コンテンツをさらにブラッシュアップすると同時に、講師体制や運営体制の確立を行い、実践編セミナーの事業化を進めていきます。

3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、ファシリテーションを活用した支援を行います。

1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- ファシリテーションサポート委員会では、行政・各種団体・NPO・企業等の多様な分野から寄せられる様々な相談や依頼に対し、抱えている課題やニーズを丁寧にヒアリングし、会員を適切にコーディネートすることで、ファシリテーションを活用した支援を行います。
- 依頼及び実施案件の分析を踏まえて、今後の支援助言事業の方向性を検討します。

2) 災害復興・防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 災害復興委員会として運営を開始し、これまで災害復興支援活動において関係を育んできた団体を中心に、被災地それぞれの復興フェーズに合わせた支援を行います。
- FAJ内外において被災地の復興をファシリテーションで支援する人材の発掘・育成を行います。
- JVOAD等の外部支援団体との交流を進め、災害復興・防災・減災に役立つファシリテーションの普及に取組みます。

3) 支援活動への理解の促進(ファシリテーションサポート委員会、災害復興委員会)

- 会員や社会に対し支援助言事業の活動をより見えるようにし、本事業の効果・意義を広く伝えていきます。

4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

交流・親睦事業では各種イベントや関連団体との交流を通じて、FAJの内外のつながりをさらに深めます。

1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)

- 各支部において地域イベントを開催することで、FAJ内外の交流を深め、ファシリテーションの普及と探究を促進します。

2) 国境や文化・言語を越えてつながる交流・親睦活動の強化(グローバルファシリテーション推進委員会)

- IAFとのさらなる連携強化や情報交換を目的に、本年度のIAFマレーシア大会へFAJ会員を公募により派遣します。
- グローバル化に対応したファシリテーションへのニーズの把握や知見を高めるために、様々な分野での交流・親睦を検討、実施します。
- グローバル委員会の設立目的に立ち返り、現状の課題を改めて整理・検討し、時代に合わせて今後のあり方を明確にします。

3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会、事務局)

- IAFをはじめとするファシリテーションの普及・研鑽に関わる団体と、協働パートナーとしての活動を進めます。
- 各分野で活動している外部団体とファシリテーションを軸にコラボレーションを進めます。また、FAJ外部のファシリテーターとの連携を深めます。

5 広報・コミュニケーション活動

ファシリテーションのインパクトをより効果的に社会に伝えるとともに、FAJのミッションや活動を、将来の会員や支援先、協働パートナーに発信するための広報を展開します。また、会員相互のコミュニケーションの充実を図ります。

1) 広報戦略の立案と発信の強化(理事会、広報委員会)

- 広報戦略の詳細を検討し、具体的な広報活動に落とし込みます。
- 広報ターゲットに合わせた広報活動を継続的に推進するために、広報委員会を新設し運営を開始します。

2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)

- ファシリテーションに関する知見や会員の実践事例を収集し、効果的に発信します。
- ニュースレターを発行し、会員相互で知見を共有することで積極的な活動を促します。
- 広報ターゲットにあわせたWebのコンテンツの充実を図り、情報発信を強化します。

3) 会員相互のコミュニケーションの充実(理事会、広報委員会、システム管理委員会、事務局)

- 会員相互のネットワークを生み出すためのコミュニケーション機能について、検討を継続的に行います。
- システム管理委員会を新設し、情報共有方法やツール活用などを検討することで、運用の円滑化を図ります。

6 ミッション及び組織運営に関わる活動

全国の会員がリアル／オンラインの場で対話と議論を重ねながら、FAJ活動の意義を問い直し、よりよい運営方法を考えることで、そのあり方とやり方を検討します。

1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

- FAJ活動の意義と成果を再確認し、大切に守ることと改革することを明確にするため、組織のあり方と運営のやり方の対話と議論を継続します。
- FAJ活動をより自律・分散的にするために、これまでの予算・決算の状況を踏まえ、今後の事業のあり方と予算作成のやり方について検討します。

2) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- FAJとしての活動を維持・向上させるために、NPO法人に関連する各種の制度改正への対応を行います。

FAJビジョン3.0

タテ型社会の常識からヨコ型社会の知恵へ (社会の視点・ファシリテーションの視点)

- ① 社会を構成する多くの人が、**対話と議論の手法や知恵**を自ら学び活用し、協働している。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合いともに歩む**ヨコ型社会**を目指して変革をはじめている。

強い意志を持ったイノベーターのネットワークへ (ファシリテーターの視点・FAJの視点)

- ③ 社会や組織の課題を解決したいと願う挑戦的な**イノベーター**が、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターの**ネットワーク型組織**が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。

ビジョンを実現するためのFAJの行動

- ① 社会を構成する多くの人が、対話と議論の手法や知恵を自ら学び活用し、協働している。
 - FAJは、個々の思いを機敏に具現化して、着実にイノベーションへとつなげる集合知を創生する。
 - FAJは、課題解決や変革を必要としている組織・コミュニティにファシリテーションのスキルとマインドを届ける。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合い、ともに歩むヨコ型社会を目指して変革をはじめている。
 - FAJは、社会に深く根を張る上意下達型・ヒエラルキー型の思考様式と行動様式を打ち破り、多様な人々が自律的につながるネットワーク型組織の成功事例を、身をもって実現する。
 - ファシリテーションが生んだ成功事例を集め、その有用性や応用可能性、社会に与えるインパクトをアピールする。
- ③ 組織や社会の課題を解決したいと願う挑戦的なイノベーターが、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
 - FAJに集まる野心的なファシリテーターが、国際的紛争や新しい分野など、それぞれの現場に向き合って耕し、その課題解決に挑戦し、成果を上げている。
 - FAJに集まるファシリテーターが、ヨコ型社会における新しいリーダーシップに挑戦している。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターのネットワーク型組織が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。
 - FAJは、地域や特定分野での実践的な活動を支援する拠点やプロジェクトを臨機応変に立ち上げ、自覚と責任を持って変革を進める人々を輩出し、それらの場をつなぐネットワークのハブとなる。
 - FAJは、ファシリテーションに関する知識と経験を深めるため、研究と試行を重ね、地域や分野、世代を超えて実践者が刺激し合う相互研鑽の場となる。

ミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。

以下、計画の詳細について記載します。

【A】特定非営利活動にかかる事業

1. 調査・研究事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
北海道支部 定例会	通年 (11回)	北海道	33名 (3名×11回)	会員330名、一般33名 (会員30名＋一般3名)×11回
東北支部 例会	通年 (10回)	宮城	20名 (2名×10回)	会員150名、一般50名 年間10回
東京支部 定例会	通年 (11回)	東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬等	220名 (20名×11回)	会員770名、一般176名 (会員70名＋一般16名)×11回
中部支部 定例会	通年 (11回)	愛知	66名 (6名×11回)	会員440名、一般77名 (会員40名＋一般7名)×11回
関西支部 定例会	通年 (11回)	大阪・京都・兵庫	132名 (12名×11回)	会員550名、一般88名 (会員50名＋一般8名)×11回
中国支部 定例会	通年 (11回)	広島	33名 (3名×11回)	会員132名、一般33名 (会員12名＋一般3名)×11回
九州支部 定例会	通年 (11回)	福岡	33名 (3名×11回)	会員330名、一般55名 (会員30名＋一般5名)×11回
サロンサポート	—	地域型12カ所 テーマ型4カ所	—	—

2. 教育・普及事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
公開セミナー	通年 (46クラス)	東京・大阪・愛知 ・広島・福岡等	230名 (5名×46クラス)	会員368名、一般552名 (会員8名＋一般12名)×46クラス
事業検討	未定	—	—	—

3. 支援・助言事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
ファシリテーション サポート委員会	通年 (50回)	全国	100名 (2名×50回)	一般1,500名 (一般30名×50回)
災害復興委員会	通年 (30回)	全国	60名 (2名×30回)	一般900名 (30名×30回)

4. 交流・親睦事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
グローバル ファシリテーション 推進委員会	9月	マレーシア	5名	不特定多数
	未定	愛知	-	-
	未定	福岡	-	-
	未定	東京	-	-
	未定	札幌	-	-
	未定	仙台	-	-
	未定	大阪	-	-
	-	-	-	-

5. その他の総合的な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
広報委員会				
ニューズレター	3回	全国	24名 (8名×3回)	会員 1,500名
ウェブサイト	通年	全国	20名	不特定多数
メーリングリスト等	通年	全国	20名	会員 1,500名

【B】その他の事業

実施しません。